

小型家電を回収し、希少金属を再資源化する事業を全国で実施。廃棄物の削減と共に障害者の収入向上にも寄与。



## 【取組内容】

- 使用済みパソコンなどの小型家電を回収、希少金属の再利用のため、解体・分別する「基板事業」を実施。
- 廃棄物量を減少させ、環境負荷の低減に寄与するとともに、希少金属売却による収益を、解体分別を行う障害を持つ人々の工賃として支払うことで、障害を持つ人々の工賃向上と自立に寄与。
- 17道府県55箇所の障害者施設でネットワークを構築し、ノウハウを共有・活用している。（令和4年7月時点）

## 【評価のポイント】

## 普遍性

希少金属の循環は日本国内のみならず世界で取り組む課題である。本事業はこの解決に資するロールモデルとなり得る。

## 包摂性

年齢・性別を問わず、多様な人々が小型家電の再資源化に貢献できる仕組みを構築している。

## 参画型

小型家電の回収及び家電の解体分別作業を通じて、あらゆる人々が参画可能な事業である。

## 統合性

廃棄物の削減、希少資源の再循環、環境負荷の低減に加え、障害を持つ人々の収入増加と自立に寄与し、社会的・経済的に好循環を生んでいる。

## 透明性と説明責任

ホームページを毎日更新している他、年次総会を行い活動の透明化と情報共有を加盟施設間で図っている。

## 変革性

不要な電化製品を資源と捉え、循環させることで循環型社会への変革に繋がっているだけでなく、障害を持つ人々の工賃向上に寄与。

## 連帯性と行動変容

各障害者施設が地域の自治体や企業へ赴き事業を広めている。ネットワークに加盟して事業を始める施設も増え続けている。

